

眠りスキャンを活用した 就寝時薬の効果と必要性について

2021年11月18日

SOMPOケア株式会社

そんぽの家 苗穂

ホーム長：青木 聖治

看護師：横地佳澄、田山未来

© Sompo Care Inc. All Rights Reserved.

施設紹介

そんぽの家 苗穂

平成20年4月1日開設

- 介護予防特定施設入居者生活介護
- 特定施設入居者生活介護
- 104床



パラマウントベッド 眠りSCAN

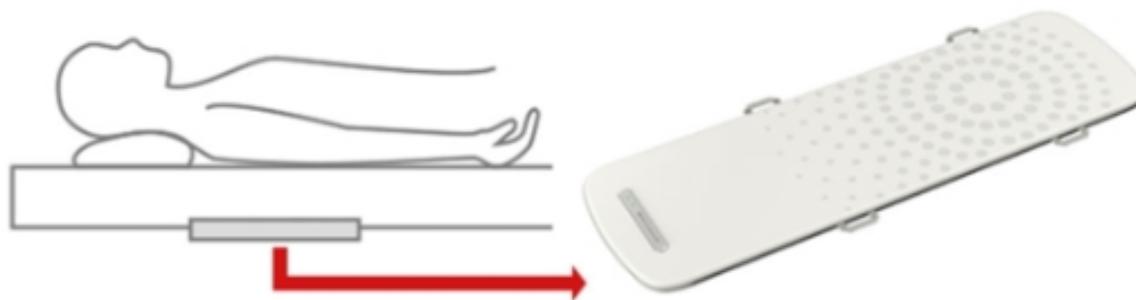
眠りSCANの設置方法・測定方法

センサをマットレスの下に敷いてスイッチを入れるだけで測定可能です。

測定されたデータは自動で機器本体の内蔵メモリーに記録されます。

記録されたデータの閲覧や管理は眠りSCAN Viewerをインストールしたパソコンで行うことができます。

※センサを使用するにはAC電源が必要です。



眠りSCANについて

入居者の状態を一覧表示「リアルタイムモニター機能」

パソコンなどの端末で、施設の各入居者の状態をリアルタイムに一覧で表示されます。例えば夜間、各入居者の睡眠や覚醒状態を確認することで、スタッフは効率的に適宜必要なケアを提供することができます。



眠りSCANについて

入居者の状態変化が把握できる「睡眠日誌・呼吸日誌」

測定したデータは睡眠日誌や呼吸日誌として長期的変動を記録、閲覧することができます。

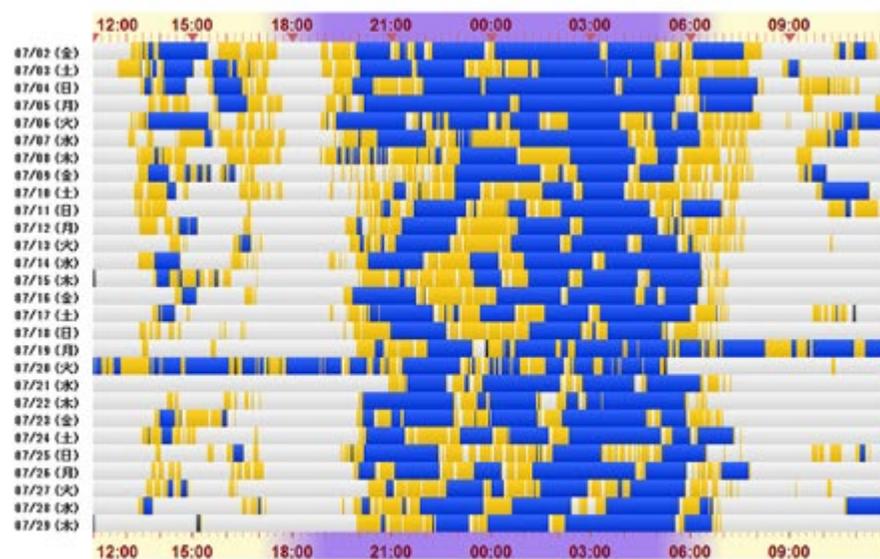
- ・睡眠日誌で生活リズムを把握

生活リズムを把握することで個人に合わせたサービスを提供することができます。

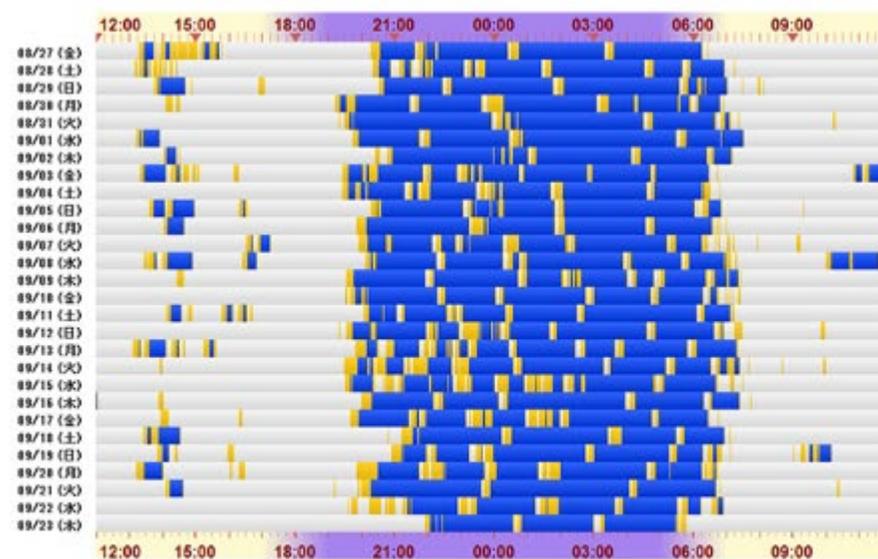
入居者の生活リズムに合わせてサービスを提供することで、生活習慣の改善を図ることができます。

下図ではサービスを改善することによって入居者の夜間の覚醒（オレンジ色部分）が減り、しっかりお休みになられていることが分かります。

サービス改善前の睡眠日誌

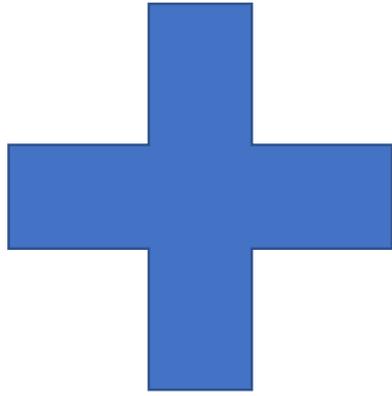


サービス改善後の睡眠日誌



目的

- 夜間を主とした安否確認

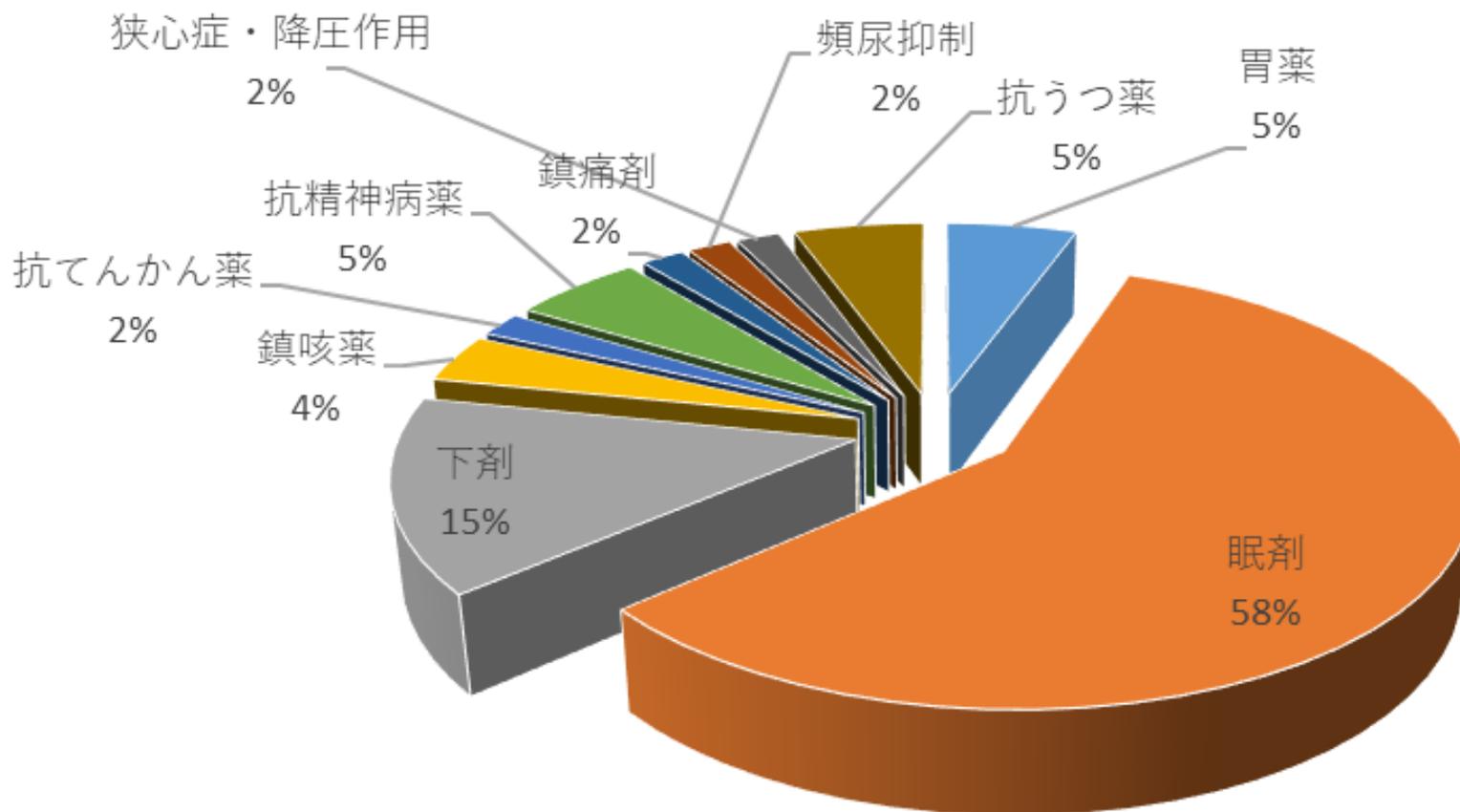


- 就寝薬の効果と必要性を検証

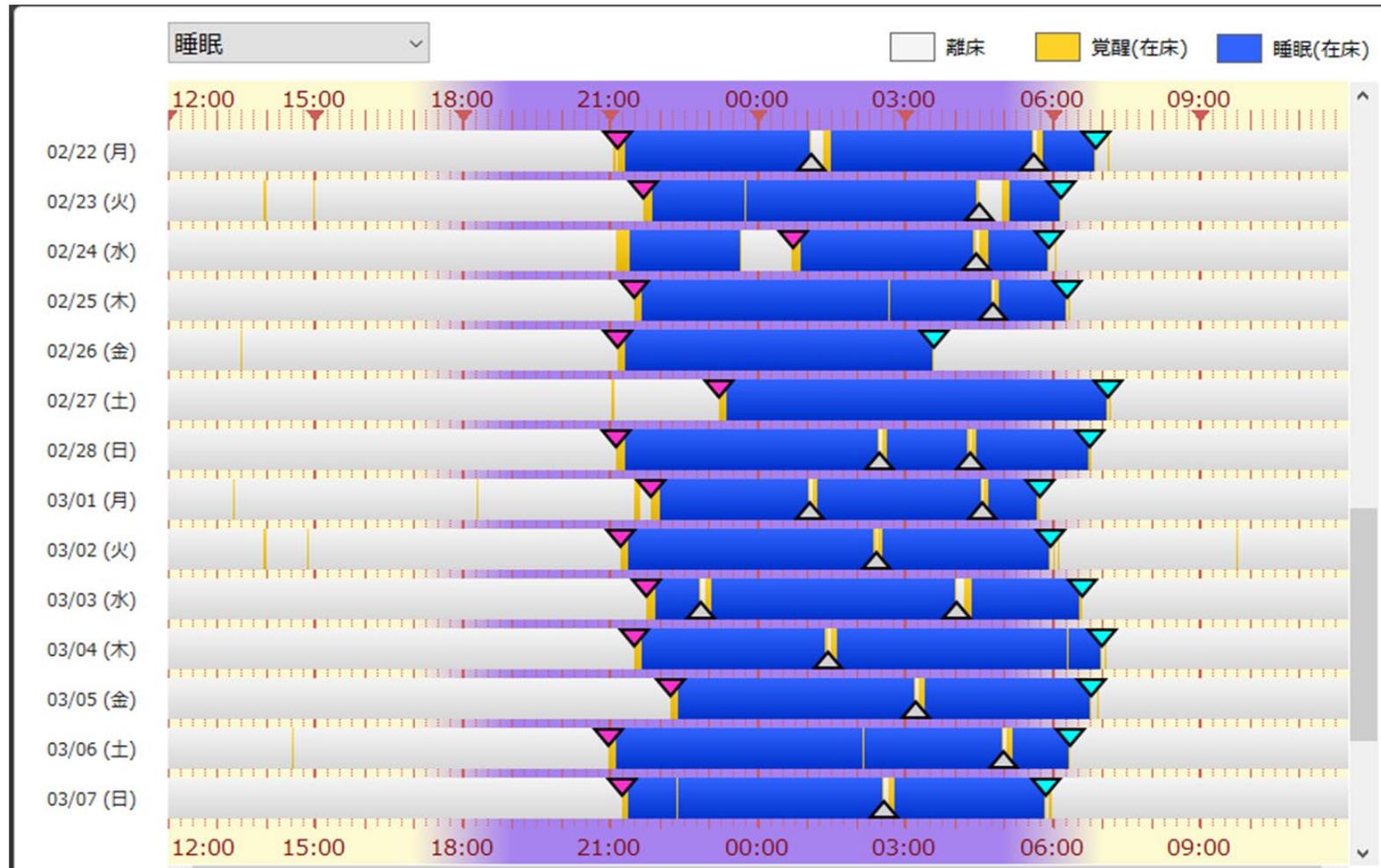
対象者

• 就寝薬を服用している19名

施設管理している入居者様の就寝時薬の内容



検証方法



検証方法

睡眠日誌

様(月 日～ 月 日)

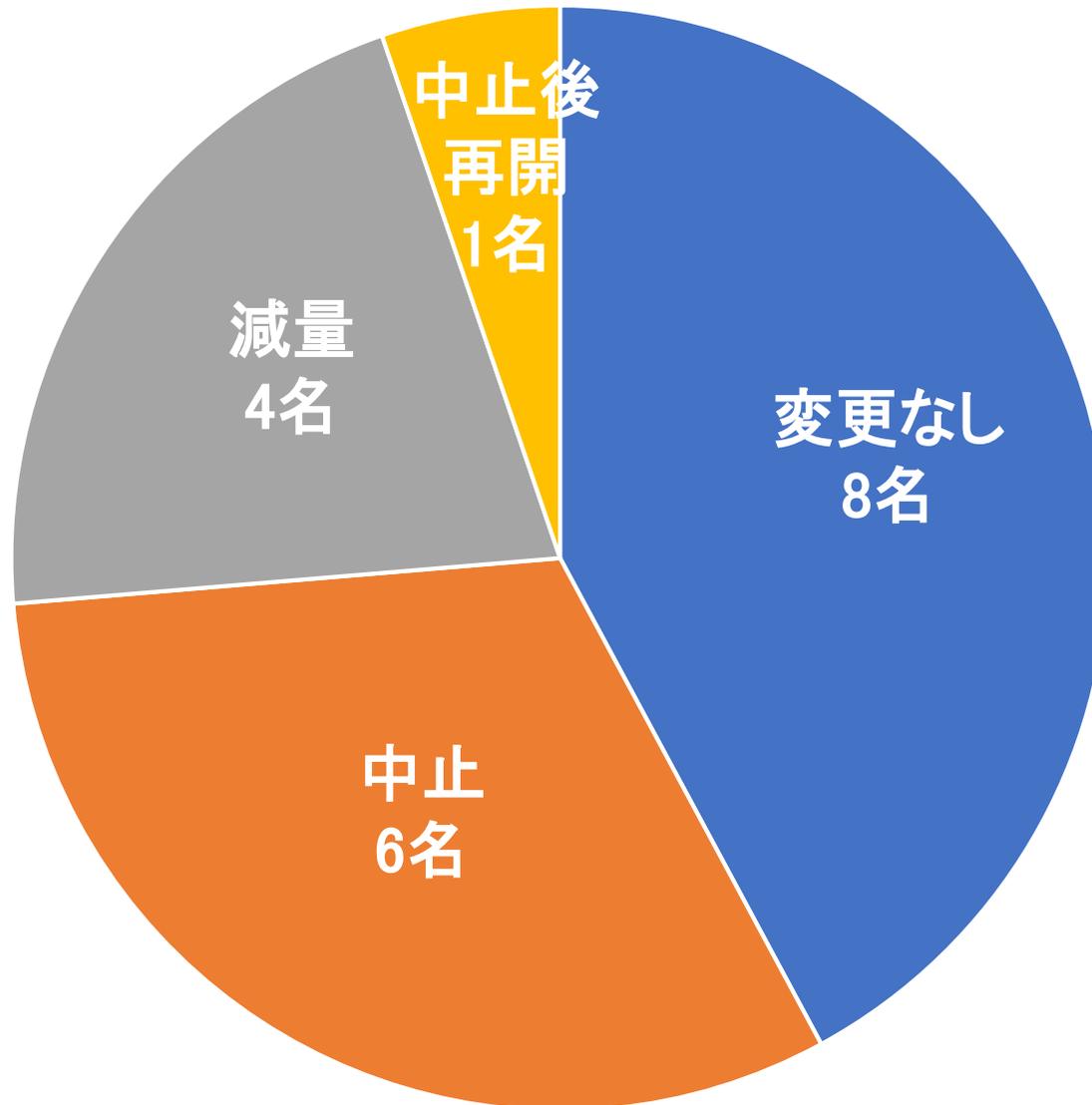
《記録方法》

- ① 【与薬時間】 に実際に与薬をした時間を記載する。
- ② 【朝の覚醒状況】 に起床後入居者様の朝の覚醒状況を聞いて5段階評価で当てはまる場所に○をつける。
- ③ 【職員からみた残眠感】 に声掛けをした時の入居者様の残眠感の様子を5段階評価で当てはまる場所に○をつける。
- ④ 【気になったこと・コメント】 に入居者様が訴えたことや気になったことを記入する。

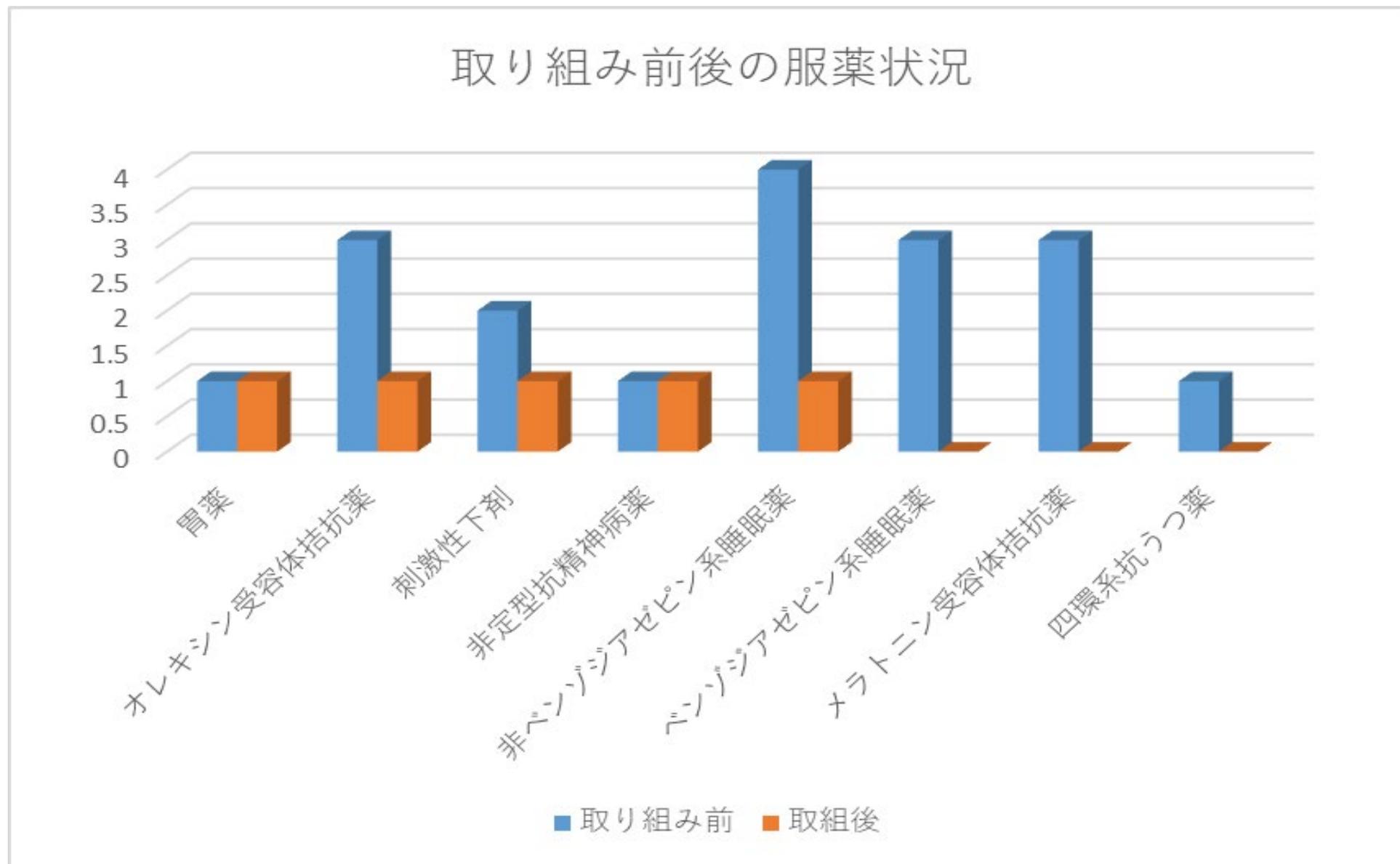
日付	与薬時間	朝の覚醒状況					職員からみた残眠感					気になったこと・コメント
		とても悪い	少し悪い	普通	まあまあ良い	とても良い	残眠感強い	少し残眠感ある	普通	覚醒良い	スッキリ覚醒	
/	:	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
/	:	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
/	:	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
/	:	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
/	:	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
/	:	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
/	:	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	

結果

服薬見直し後の結果



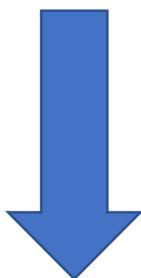
結果



事例1 A様

ベルソムラ15mg1錠・ロゼレム8mg1錠服用

- ・与薬時に入眠していることがある。
- ・残眠があり、食事の時に眠ってしまう。
- ・このため食事が摂れない、食事時間を遅らせることがある。



ベルソムラ15mg1錠・ロゼレム8mg1錠ともに中止

- ・就寝時間、起床時間に変化なし
- ・日中の活動量も変化なし
- ・頓服としても服用せず

事例2 B様

ロゼレム8mg1錠・ブロチゾラム0.25mg1錠内服中
(超短時間型+短時間型)

- ・夜間覚醒多い
- ・眠気がある状態で夫の排泄介助を行い転倒が多発。

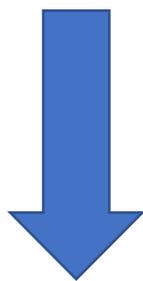


エスタゾラム1種類に変更(中間型作用)

- ・中途覚醒減少
- ・残眠感軽減
- ・転倒事故減少
- ・日中の活動量増加

事例3 C様

クエチアピン25mg1錠・ゾルピデム5mg1錠内服中
本人から減らして欲しいと訴えあり



中止した当日から不眠の訴え
眠りスキャン上では中止前後の変化はなし
本人から再開したいと訴えあり再開

考察

- ・眠りについての評価が本人の訴えだけでなく、見える化によって、気付けることが多くなった。
- ・これに伴い適切な処方につながる期待が持てる。
- ・「眠剤を飲まない方が良く眠れる」
- ・「眠剤に頼らないよう運動するようになった」という意見あり。
- ・不要な薬がなくなることで服薬介助の援助時間軽減に。
- ・根拠を持って処方することが出来ると医師から前向きに意見あり。

課題

- 眠リスキャンの事を知らず、信憑性を疑う意見あり
- 薬の依存性が高い場合は変更が難しい
- 転倒などの事故軽減に期待ができる一方、睡眠だけが事故要因とは限らない。

今後の活用

質の高い睡眠を確保することで

- ・日中の活動量増加
- ・食事摂取量の増加
- ・転倒予防
- ・職員の負荷軽減



SOMPOケア

介護の未来を変えていく

ご清聴ありがとうございました

コロナ禍におけるサービス付き 高齢者向け住宅での終末期・ 看取り期の実践について

ライフリズムナビ+Dr（見守り機器）を用いた事例について

2021. 11. 18
株式会社来夢 矢代 虎太郎

会社概要



法人名：株式会社来夢

事業所名：リハ・ハウス来夢

設立：平成26年4月

住所：富山県氷見市伊勢大町二丁目14番20号

代表者：代表取締役 岩倉 香織

事業内容：通所介護（定員30名）、訪問介護、
サービス高齢者向け住宅（40室）、
居宅介護支援、訪問看護

関連会社：株式会社カオリ、有限会社サラン商会、
岩倉米穀店、岩倉不動産



富山県氷見市の取り巻く環境

人口：45,164人

世帯数：17,099世帯

高齢化率：39.2%

※氷見市役所ホームページより

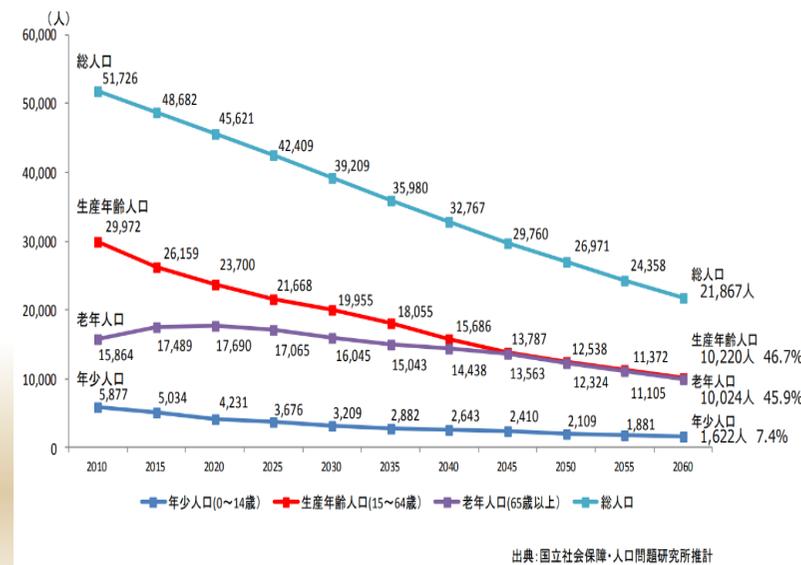


★氷見市総人口の将来推計★

○総人口は年々減少

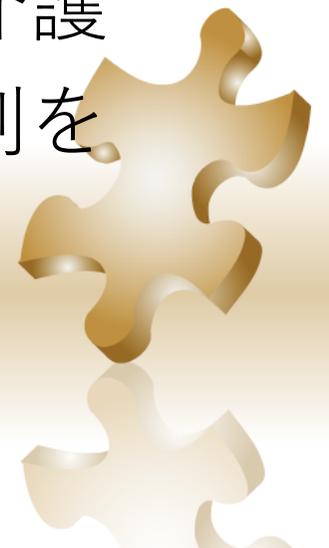
○特に年少人口と生産年齢人口の減少が目立つ

○将来的に高齢化率が更に上昇する推計結果となっている



見守り機器導入の目的について

- 急激な過疎化が進行している氷見市内において
介護職員の雇用確保が困難であること
- 利用者様の状況や状態などをリアルタイムに
情報共有するためのクラウド型高齢者見守り
システムを導入していくことで、顧客満足度を
高めること
- 高付加価値の住宅サービス提供とあわせて介護
労働生産性の向上を両立する新たな介護体制を
構築していくこと



見守り機器導入前の課題について

利用者一人ひとりに合った住宅サービスの提供を図るため、普段から必要な支援提供していたが、介護依存度や医療依存度が高くなってしまおうと当社では最後まで対応することができなかった。最期まで住み続けたい利用者の急増や、業務の繁忙化、職員個々のレベルのバラツキに加え、過疎化する氷見市において介護支援における人的負担の増加などの問題点を有している。



機器導入までの具体的な取組み

平成29年～令和元年

- ①リハビリ職種^の採用確保 【PT・OTは常勤、STは非常勤】
- ②医療機関・かかりつけ薬局との連携強化  瑠璃光薬局
- ③見守り機器の調査および導入事業所の実態調査
- ④申し送りをSNS化へ  Chatwork
- ⑤高齢者住まい看取り推進研修事業所の採択
- ⑥食事提供業者の変更 【食形態の追加】 **ナリコマグループ**
- ⑦日勤帯に看護職員を常駐
- ⑧訪問看護事業の立ち上げ
- ⑨平成30年度補正『ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金』の採択
- ⑩介護記録ソフトをICT化に変更  FirstCare

機器導入における業務内容の変化

- ①夜勤職員の負担軽減
- ②居室内の見守り・訪室回数の減少
- ③生活サイクルの把握から効率のよいサービス提供の強化（先回りの介護）
- ④入居者の転倒回数の減少
- ⑤認知症症状や中重度化している入居希望者の受け入れ対応が可能
- ⑥情報共有の円滑化
（医療や居宅、家族などとの連携強化）



機器を導入してのメリット

- ①適切な巡視タイミング・適切な夜間ケア
- ②適切なケアタイミング※排泄ケアを含む
- ③健康管理・睡眠改善
- ④適切なターミナルケア



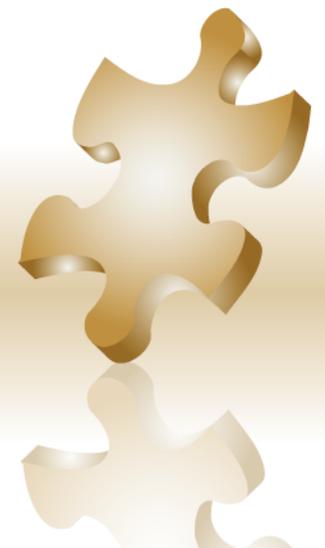
職員の負担軽減
サービスの質の向上



適切な巡視タイミング・適切な夜間ケア①

- ・転倒発見、救急搬送（ケース(1)）

※センサー反応が確認できないために臨時訪室したところ、居室内にて転倒発見し、救急搬送した
ケース事例【夜間帯】



適切な巡視タイミング・適切な夜間ケア²

- ・転倒発見、救急搬送（ケース(2)）

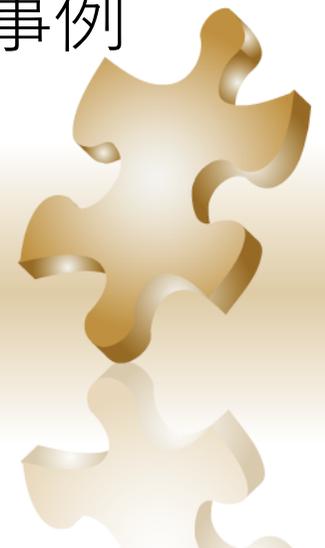
※センサー反応が確認できないために臨時訪室したところ、居室内にて転倒発見し、救急搬送した
ケース事例【日勤帯】



適切な巡視タイミング・適切な夜間ケア③

- ・ 安否確認、救急搬送（ケース(3)）

※タブレットに表示されている心拍、呼吸数に異常数値が表示されたために臨時訪室したところ、呼吸が荒く、肩呼吸しており、顔色不良であることを確認し、のちに救急搬送したケース事例
【日勤帯】



適切なケアタイミング※排泄ケアを含む

- ・ 排泄ケア

- ※トイレアラートにて排泄ケアに入る

- ※離床アラートにて排泄ケアなどに入る

- ※長時間トイレアラートにて排泄ケアに入る

- ・ 起床介助、就寝介助

- ※一日の生活リズムを把握することで、おおよその時間を確定させる

短時間の発表時間のため、ケース事例紹介は控えます



健康管理・睡眠改善①

- ・ 昼夜逆転の解消（ケース(4)）

※多職種にて介護記録やライフリズムナビデータを共有・分析し、生活サイクルの変化を認識したことで、速やかな受診対応と状況変化に応じたサービス調整を行うことで、早期の回復に対応したケース事例

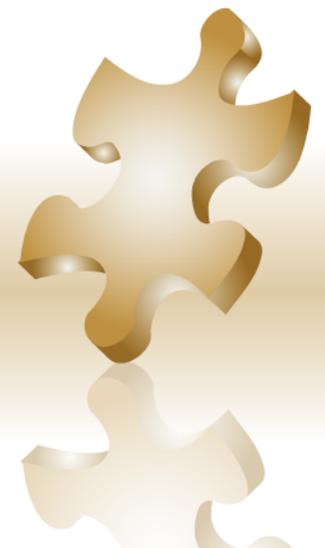


健康管理・睡眠改善²

- ・ 眠前薬の調整

※医師や看護職などと介護記録やライフレイズムナビデータを共有・分析し、生活サイクルの変化を認識したことで、速やかな服薬対応と状況変化に応じたサービス調整を行うことで、早期の生活サイクルの改善を目指す

短時間の発表時間のため、ケース事例紹介は控えます



健康管理・睡眠改善③

- ・脱水防止（ケース(5)）

※介護記録（食事摂取量）やライフリズムナビデータ（トイレ利用回数の減少）などの入居者情報を主治医や看護職、介護支援専門員らが共有・分析し、生活サイクルの変化を認識したことで、速やかな受診対応と状況変化に応じたサービス調整を行うことで、早期の回復に対応したケース事例

ターミナルケア①

- ・利用者様と家族様とこれからの希望を確認する

※入居時や状態変化時など、入居者や家族などに対して、
どのように過ごされたいのか、終末期を迎えたい場所や
延命治療の有無など、常に意向調査を行い、最終的に
ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を作成して
いる



ターミナルケア②

- ・兆候を把握することで、必要に応じたサービス提供を見直す

※福祉用具の追加や見直し

(ベッドや除圧マット、体交用具など)

※サービス提供の内容変化など

(訪問看護サービス、訪問入浴サービス、訪問リハビリサービス、居宅療養管理指導、保険外サービスなど)



ターミナルケア③

- ・見守り機器を用いることで職員の安心感が得られる

※ライフリズムナビデータからリアルタイムに状況の変化を把握することで、出来る限り日勤帯のうちに事前の準備をしておくことで対応予測が可能となる
(先回り介護)



ターミナルケア④

- ・ 経口食を出来る限り継続する **ナリコマグループ**
 - ※病気に合わせた食事形態（塩分制限、エネルギー制限、脂質制限、蛋白コントロールなどを用意）
 - ※嚥下状態に合わせて、普通食⇒ソフト食⇒ミキサー食⇒ゼリー食と状況変化に合わせた対応
 - ※お楽しみ食を実施（食べたいものを食べれるように）



ターミナルケア⑤

- ・服薬調整、疼痛管理



- ※居宅療養管理指導（かかりつけ薬局との連携）

- ※状況に応じて減薬

- ※疼痛管理は経口から貼付薬、坐薬などへの切り替え

- ※適切な麻薬対応



ターミナルケア⑥

- ・ 家族様や他の利用者様などとお別れの機会を作る
(ケース(6)、(7))
 - ※会いたい人に会う
 - ※行きたいところに行く
 - ※されたいことを心置きなくする
 - ※お楽しみ食の実施



これからの在宅は・・・ここまで来ている

- ①急性期病院での在院日数の短縮化
- ②医療ニーズの高い状態にもかかわらず退院する療養者が増えてきている
- ③在宅医療機器の革新により、今迄は入院で対応するしかできなかつた治療が在宅でも可能
- ④在宅ターミナルケアが増える
- ⑤国は「在宅死比率アップ」を目標としている
- ⑥コロナによる面会謝絶により、無理をしてでも病院を退院する人が目立ち始めている



ご清聴ありがとうございました

ご質問などありましたら下記メールアドレスまでお問い合わせください。

矢代 虎太郎（やしろ こたろう）
kotaro@raimucare-t.jp



令和3年度 福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

介護ロボット活用ミーティング

在宅での福祉用具利用について

公財) 武蔵野市福祉公社

武蔵野市住宅改修・福祉用具相談支援センター

堀家 京子

武蔵野市住宅改修・福祉用具相談支援センター

1993（平成5）年7月 設立

単なる補助金の給付でなく、リハビリテーションの専門職による住環境整備のプランニングの給付。福祉用具や住宅改修で生活が大幅に改善

2000（平成12）年4月 介護保険施行

福祉用具、住宅改修が介護保険サービスに位置付けられた。この時「24時間、365日のヘルパー同様である」とうたっていた。

「介護予防」「自立支援」へ。

2019（平成31）年 名称変更

「武蔵野市住宅改修・福祉用具相談支援センター」

武蔵野市住宅改修・福祉用具相談支援センター

* 人員体制

- ・ 作業療法士、理学療法士
住環境整備全般（介護保険制度でいう住宅改修・福祉用具含む）
- ・ 言語聴覚士
コミュニケーション障害、高次脳機能障害、摂食嚥下機能障害
- ・ 排泄ケア専門員（コンチネンスアドバイザー、看護師）
排泄機能の障害

* 事業内容

- ①住環境整備等に関する総合相談
- ②介護保険制度住宅改修適正化事業
- ③福祉用具の短期貸出
- ④市の独自事業の実施
- ⑤専門相談（排泄相談 / 言語聴覚士）
- ⑥広報、普及、展示に関する事業
- ⑦関係機関との連携
- ⑧人材育成
- ⑨ケアプラン指導研修事業

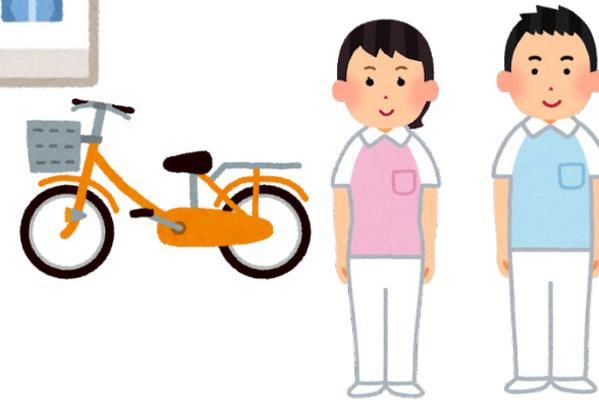


在宅とは

ご本人 生活する場所



支援者 職場



そのため 利便性はもちろん安全性も考慮する必要がある。

では、在宅生活で気を付けること「安全」とは。

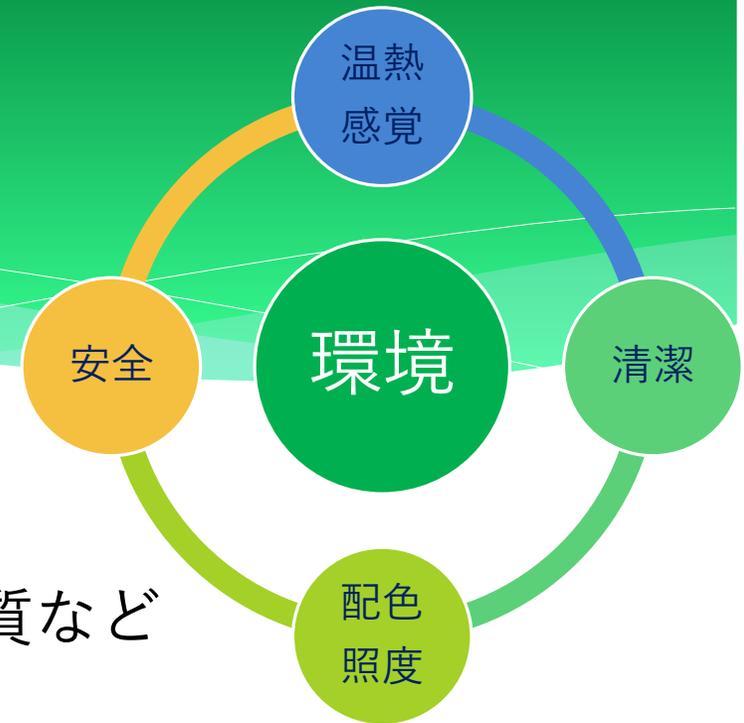
在宅での安全とは

住環境で考慮すること

- * 室温・湿度・気流・壁からの輻射熱
- * 自然採光、人工照明
- * 室内環境汚染 建築資材、家具に含まれる化学物質など
- * 音・臭い（換気）ー清潔
- * 防犯、中毒と火災、安全チェック など

そして家庭内の事故を防ぐには

ご本人、支援者の注意と住まいの構造・設備、家族構成を考慮する

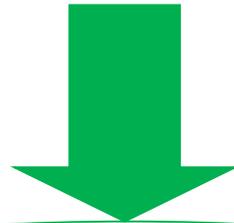


福祉用具を利用した在宅生活

- * ご本人の安全を確保
- * ご本人の自立の支援
- * ケアの質の維持・向上
- * 支援者の介護（動作）負担軽減

在宅生活を整えるための福祉用具

現在の生活に不自由さを感じた時に今までの暮らし方を



工夫して
暮らしやすくなるための一つの選択肢

福祉用具は在宅生活を支援する手段

- * 用具の利用で容易に解決が図れることもある
- * 生活の実態によっては他の手段が適していることもある
- * ご本人の能力と福祉用具の性能が一致しているか
- * 支援者がその福祉機器を使いこなせるか
- * その住居で使える用具か
- * 複数の福祉用具を使う場合には注意が必要
- * 費用負担や利用できる制度はあるか

最終的にはご本人やご家族、支援者が選択・決定する

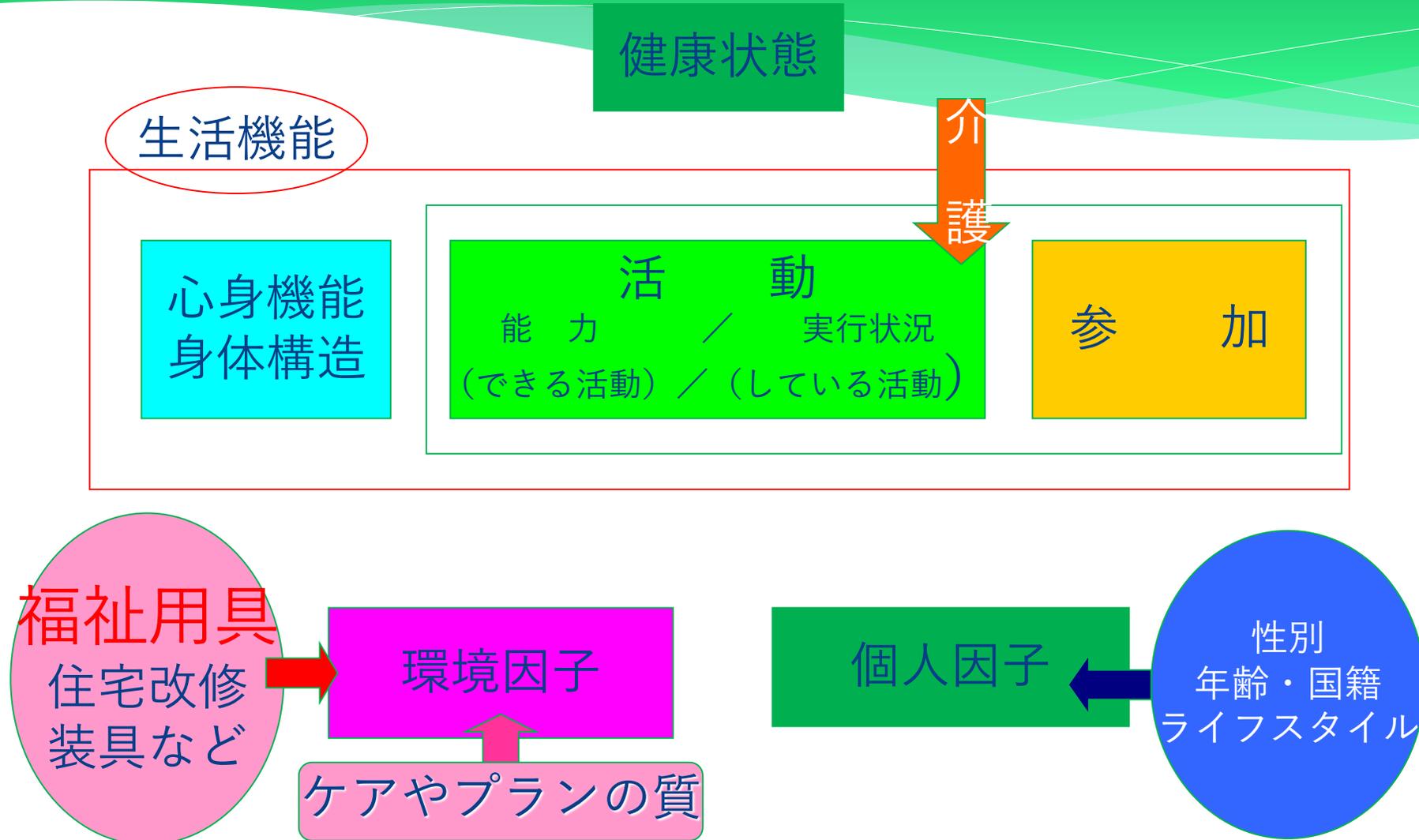
福祉用具の導入は生活の再構築

- * 導入した時の効果が実感しにくい
- * 福祉用具を使用することへの抵抗感が存在する
- * 上手に導入できれば生活の改善につながり、それにより相互に自信につながる
- * 福祉用具を決めた場合、他のサービスとの調整が必要となる事も考慮する
- * 特に住環境整備（住宅改修）とは補完しあうため一緒に考える

福祉用具を使いこなす

- * 使う人に合った福祉用具の選択 *
- * 福祉用具の役割の理解 *
- * 正しい使い方を理解する *

ICFモデルでケアプランを考えた時の 福祉用具の位置づけ



福祉用具の活用

- * 見守り支援
- * 服薬支援
- * 移動支援
- * 移乗介助
- * コミュニケーション支援

福祉用具の活用～見守り支援

- * 生活のリズムを把握 ケアマネジャー、家族
- * 転倒、転落、外出の把握
- * 様子をうかがう

福祉用具の活用～見守り支援

- * ベッドに内蔵したもの
- * 離床・徘徊の検知・通知するもの
- * 靴にGPSが内蔵されているもの
- * カメラ、画像解析し通知するもの
- * 電気量販店で市販されている乳児、ペット等をカメラで通知されるもの

福祉用具の活用～服薬支援

- * 服薬時間になると薬が出るもの
- * 薬局が在宅の服薬状況の把握をするもの
- * 時間になると声掛けをするもの
(コミュニケーション支援との併用)

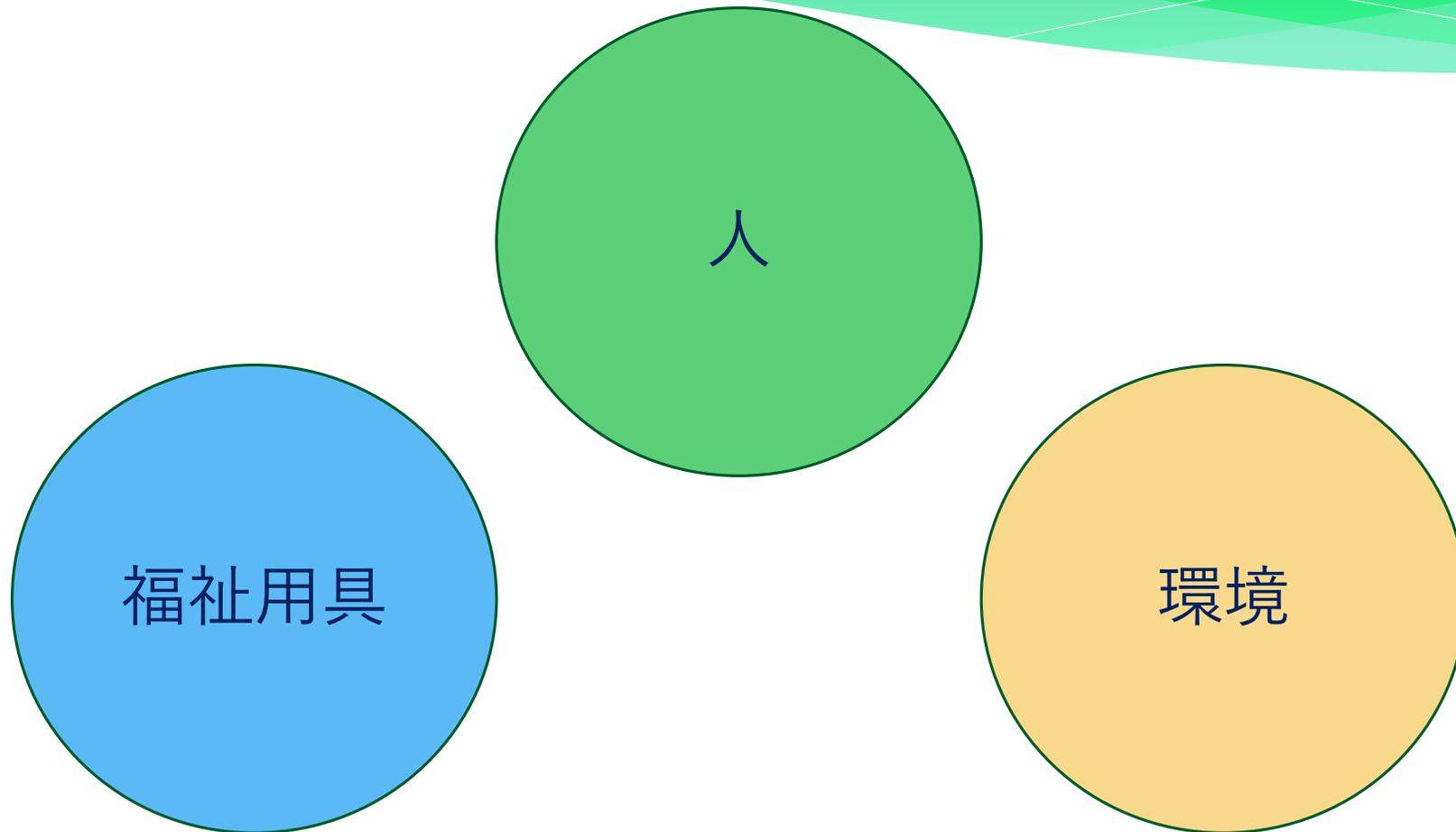
福祉用具の活用～移動支援・移乗支援

- * 電動アシスト付きのもの
- * 身体に装着して使用するもの（アシストスーツ）
- * 非装着型リフト機能付きのもの

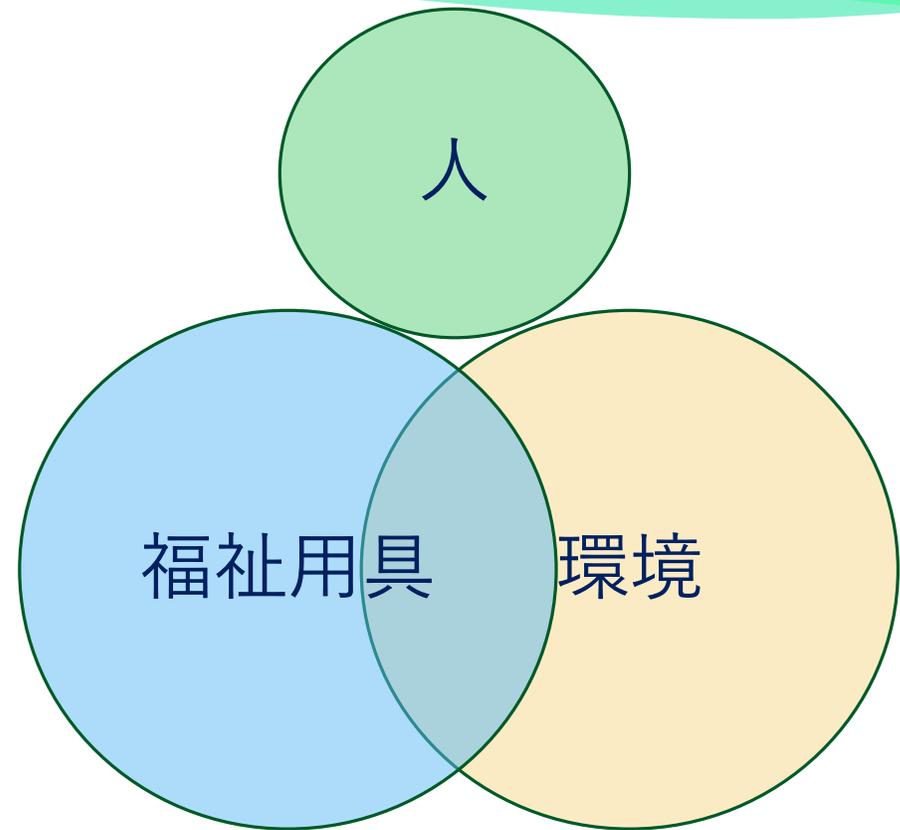
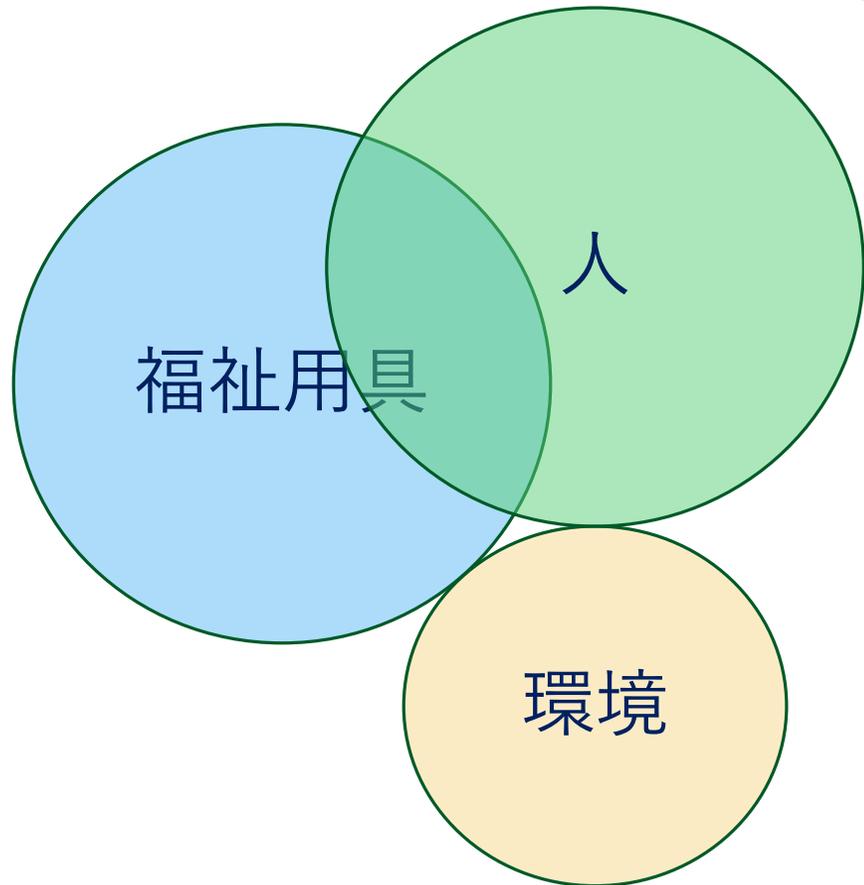
福祉用具の活用～コミュニケーション支援

- * 見守り支援機能付きのもの
- * ぬいぐるみ型、人形型のもの

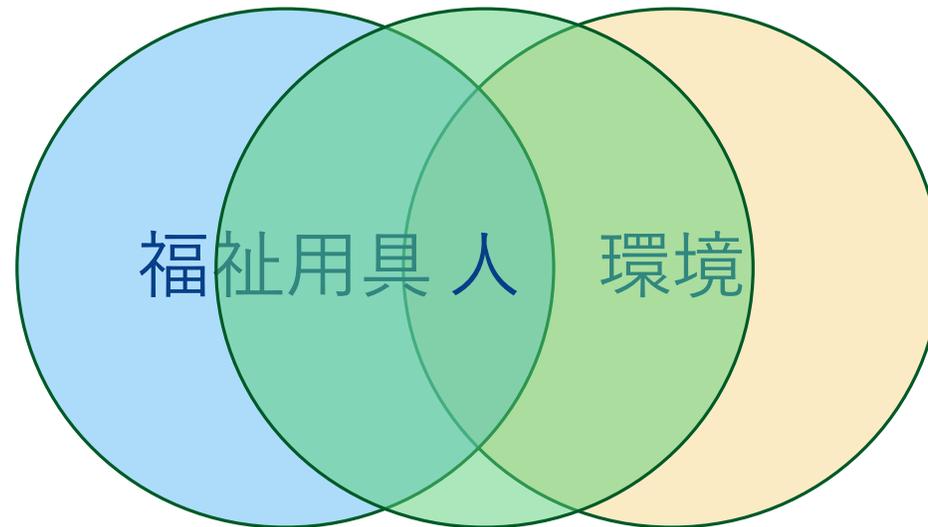
福祉用具の活用を考える視点①



福祉用具の活用を考える視点①



福祉用具の活用を考える視点①



福祉用具の活用を考える視点②

生活を見る視点

- * 実際の生活を確認
- * 訪問、観察して 住まい方、生活感に触れる
- * 住環境を整えることで福祉用具も生かされる
- * 頻度、時間、支援者により異なる
- * 生活としての「家」と職場環境としての「家」の視点で見る
- * 人の生活は面でなく線で捉える

福祉用具の活用を考える視点②

生活を見る視点

- * ICFで整理する
- * 問題解決型で整理する
- * 場面場面で考えてから一連の流れを作って整理する
- * 生活行為の単位で考えてから繋げていって整理する

福祉用具の活用を考える視点②

生活を見る視点

* ICFで整理する

生活機能

自信がなくなる
人工関節手術

何か使わないと歩けない
家事動作も大変
室内の段差昇降が大変

買い物が大変
コーラスGに行けない

転倒し骨折

玄関、トイレ
浴室に手すり
屋外で
歩行器利用

環境因子

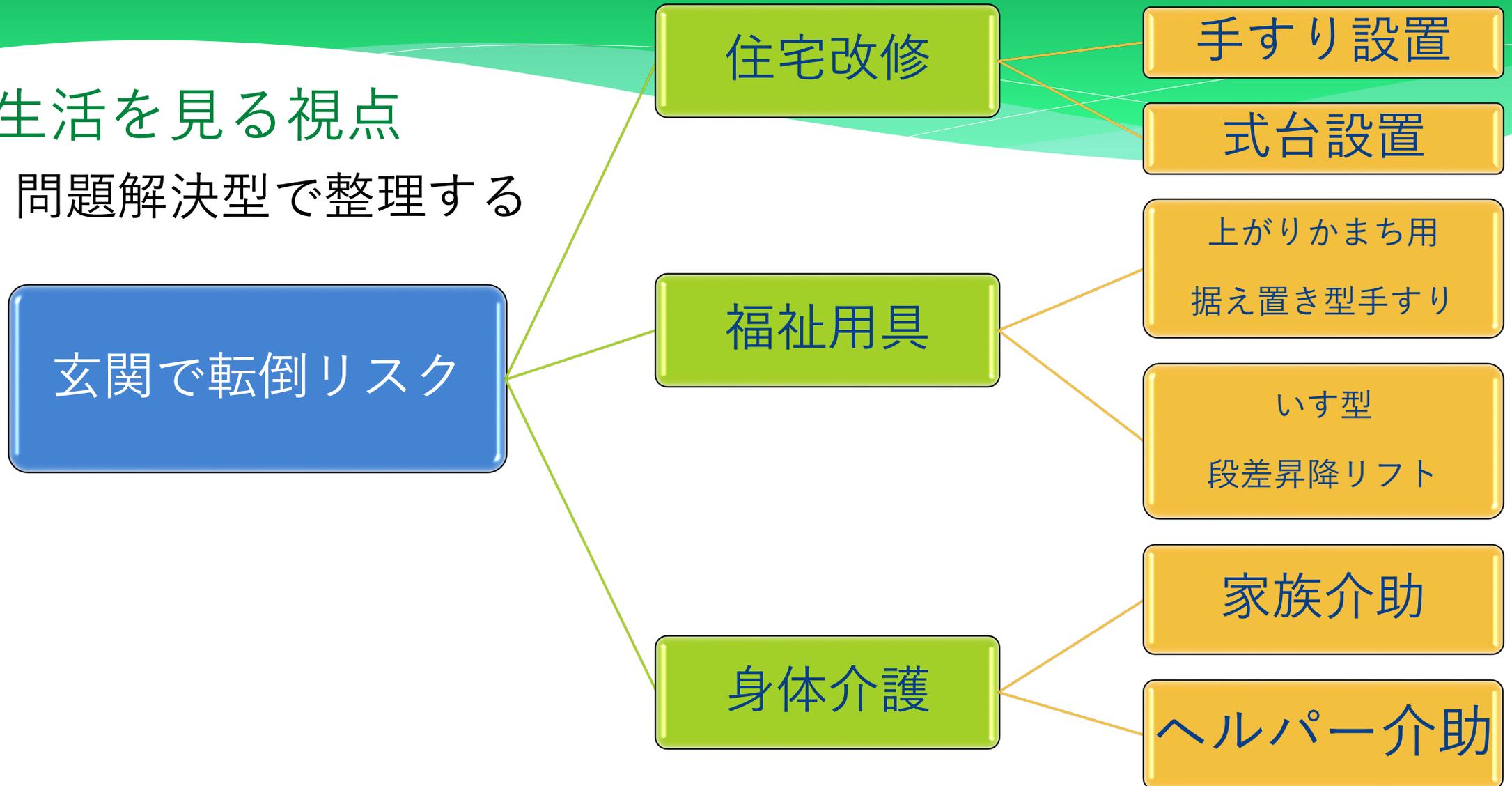
個人因子

85歳
女性・独居
地域活動に
積極的に
参加していた

福祉用具の活用を考える視点②

生活を見る視点

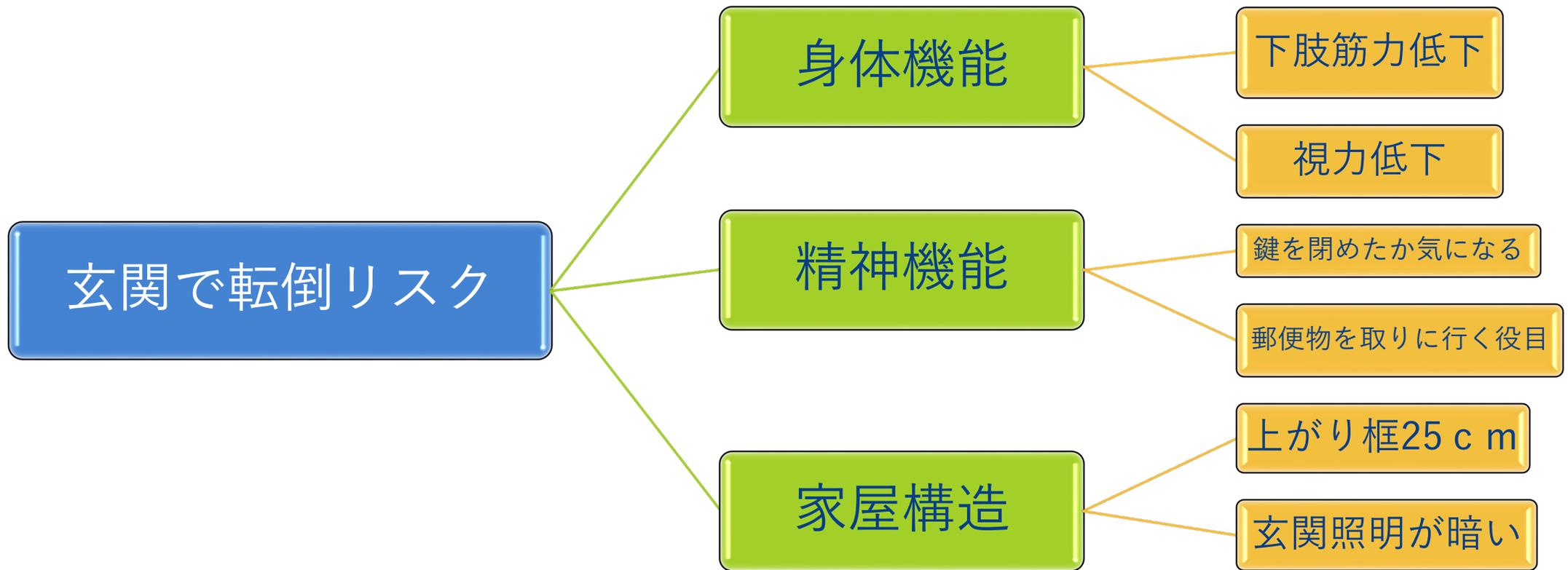
* 問題解決型で整理する



福祉用具の活用を考える視点②

生活を見る視点

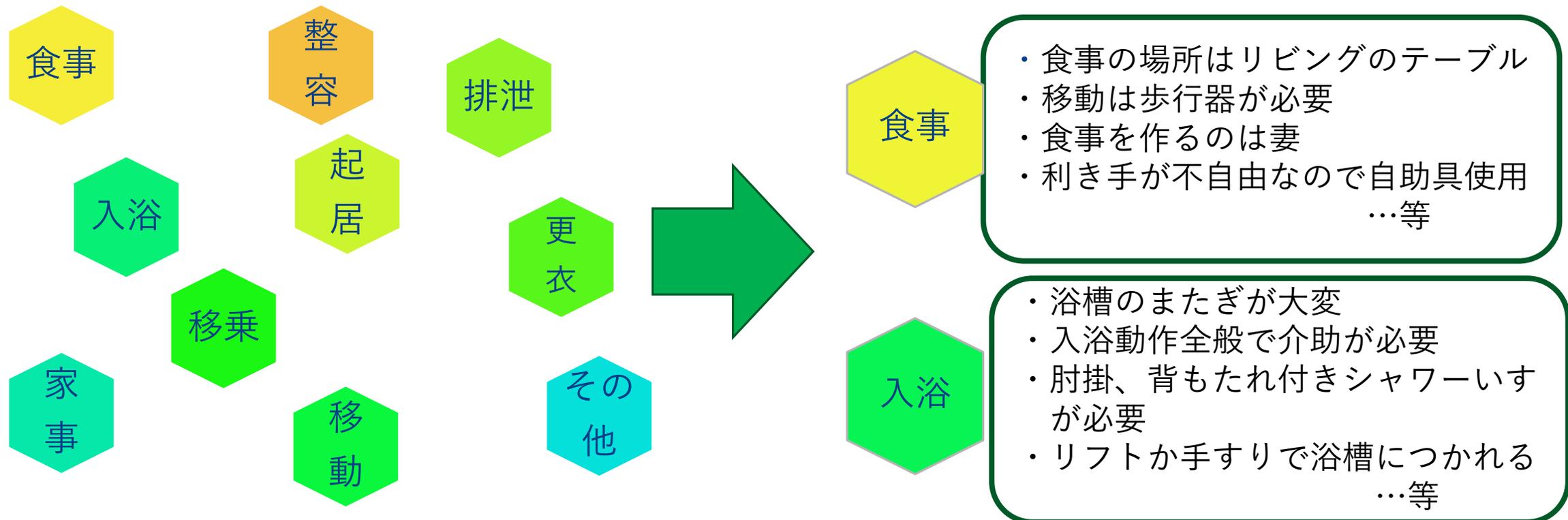
* 場面場面で考えてから一連の流れを作って整理する



福祉用具の活用を考える視点②

生活を見る視点

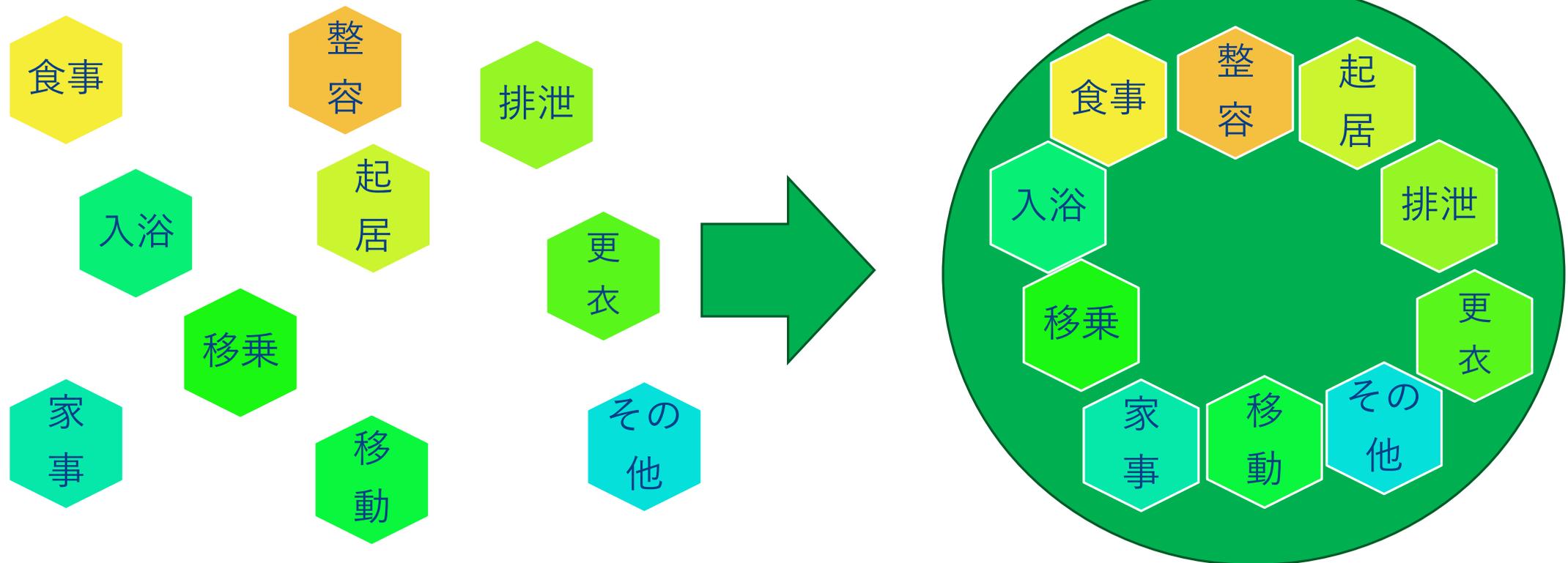
* 生活行為の単位で考えてから繋げていって整理する



福祉用具の活用を考える視点②

生活を見る視点

* 生活行為の単位で考えてから繋げていって整理する



ご清聴ありがとうございました